

# 高森山(西会津)

大竹 尚子

- 山行年月日：平成 30 年 5 月 20 日
- メンバー：外島正明 斎藤美和子  
大竹尚子
- コースタイム：弥生集落スタート 9  
: 00～東尾根取り付き 9 : 45～山頂 13  
: 00-13 : 30～弥生集落 15 : 50

西会津町の高森山は高陽山の北にあって、稜線続きの標高 1151. 2mの道のない山である。残雪期、高陽山から稜線沿いに行くのがベストなのだろうが、お目当ては「フデキ沢源頭のブナの新緑」である。ブナの新緑の頃だと稜線は藪が出ている。そこでこの時期に東の尾根から山頂を目指してみた。山頂付近にはすばらしいブナの森が広がっているというのだが・・・。

田植えの進む極入の集落を過ぎて、弥生集落に向かう。橋を渡り、久良谷沢沿いの道を進むと、溪流釣りの人たちの車が何台も見られる。急流となって流れる雪解け水はキラキラと光を跳ね返していて、遅い春の訪れを告げている。弥生集落は残念ながら冬の間は無人になってしまった。昔は分校まであったのに・・・。山菜が出始めるこの時期は、戻って生活する人が見られ、山菜を取ったり畑を耕したりしている。挨拶をして車を駐めさせてもらい、スタートする。外島さんはスマホを取り出し、「ヤマップ」を起動させている。稲作を止めて久しいらしく、田畑はススキの萱原になっている。しかし、そこには立派なワラビが栽

培(?) されていてこの時期の大切な収入源なのだろう。高森山の東側に向かって延びる林道をたどり、小さな沢を渡ると山頂から東に派生している尾根の取り付きになる。初めは杉が植林されているが、だんだんブナも出てきて緩やかな登りになる。これは「楽勝か?」と思いきや、尾根は徐々にマツの生える細い急登となり、初めのうち見られたかすかな踏み跡もやがてヤブに覆われるようになってしまった。ヤブをかき分けたり、枝をまたいだりと全身運動が激しくなる。しかし、徐々に高度を上げ飯豊の山並みが間近に見えてくると、ヤブの濃さも忘れてみんな歓声を上げる。先日の新雪で雪が消えたところもうっすらと白く化粧をしている。すっきりと晴れた日

新雪で雪化粧した飯豊



の登山は本当に気持ちがいい。尾根の分岐には赤テープを残して行く。標高 900 m ぐらいまでくると、だんだん尾根も広くなり残雪も出てくる。もう少し雪が残っていると歩きやすいのだが・・・。尾根は少し南にカーブするように山頂の台地に続いている。山頂付近はそれほど

太くはないが、ブナの木が密生していて新緑が光に輝いてまぶしくらいだ。

「これ！これです。」沢の源頭をトラバースするように残雪をたどって山頂に向かう。美和子さんは三角点を探している。光が雪に反射して日差しがまぶしい山頂だった。

さて、下山となるが少し尾根が複雑で美和子さんのナビや外島さんのヤマップ、登りで残してきた赤テープのお世話

になった。読図の大切さを痛感し、雪が残る山や道のない山はぼんやり歩いてはいけなと感じた。帰りは少し、山の恵みをいただいて集落に戻った。車を置かせていただいた家の人たちは、ゼンマイを大釜でゆでる作業に忙しそうであった。

### 木漏れ日の射すブナ林

